



「新しい年の始まりに」

ちいろば会理事長 大澤 星一

新しい年2025年が始まりました。今年もみなさんが毎日穏やかに元気に過ごせるように祈ります。聖書には「だからキリストの内にいるならば、だれでも新しい創造なのです。古いものは過ぎ去り、見よ、新しいものが生じた(私訳)」とコリントの信徒への手紙Ⅱの5章17節には書いてあります。

ここで使われている「新しい」という言葉は、時間的に新しいとか、古いものが刷新されて新しくなったという意味ではなく、質的に新しい、いつまでも新鮮である、という意味の「新しい」というギリシャ語が使われています。そして聖書で「創造」という言葉が使われると、それは旧約聖書の一番最初に書かれている、神の天地創造の物語を思い出させてくれます。でも、この天地創造の物語は、天地創造の時に書かれたのではなく、後の時代に自分たちへの深い反省の時に書かれました。

つまり、ここで新しいものが生じた、と書かれているのは、自分たちがかみさまに造られた存在だということを思い出すことです。そして、かみさまがその世界を創られて良しとされた世界の調和のために造られたということを思い起こさせられた、ということを伝えようとしているのです。

そう考えると、新しいものが生じた、ということは、決して何か新しく変わったということではなく、最初の思い…かみさまがこの世界を創られ、人を造られた思いに改めて気付かされ、その思いをもって新たに歩もうという希望なのです。

ちいろばも誕生して 35年になりました。今はいろいろなものが発明されたり、手に入るようになったり、何が大切かという考えもどんどん変わってきています。でも、便利になったかのようで、実は大切なものをどんどんそぎ落としていっているのではないかとも思えます。そういう時代や社会の中で、わたしたちは、ちいろばが最初に来た時のかみさまの思いや、ちいろばを始めた人たちの喜びや大切にしたこと、そこで過ごした利用者さんたちの気持ちを大切に歩むことが、「新しいものが生じた」ということなんだと思います。

大切な仲間が亡くなったり、悲しいことや辛いことも沢山ありました。もちろん嬉しいことも楽しいことも沢山あります。でも、どんな時でもわたしたちはかみさまによって平和のために造られた存在なんだということを心に留め置き、伝え、歩いていきたいと思っています。

どうぞ今年もよろしく願いいたします。

二〇〇〇年十二月十二日

第三種郵便物承認

毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

だれもが持っている承認欲求

ちいろば会事務長 和田 泰子

人間には様々な欲求があります。一般的に誰もが知っている基本的な生存に必要な生理的欲求から始まり、次に個人的な身体的安全と安定の安全保障の欲求、他者との関係性や所属意識を持つ社会的欲求、そして、他者から認められたい、評価して欲しいという承認欲求、最後に理想の自分になりたいと自己実現と成長のための自己実現欲求があり、これらの欲求は一つ満たされると次の欲求が現れる段階式になっていると言われています。

そして、今回私が注目した欲求が4段階目の承認欲求です。あまり聞きなれない欲求だと感じたり、人によっては「もっと私を見て、もっと私を褒めて」と自己中心的な感情だと、ネガティブなイメージを持たれる欲求だと言われていますが、私はこの欲求は誰にでもあるごく当たり前の欲求であり決してネガティブなものではないと思っています。

人は大小に関わらず何かしらの集団の中で生活しています。その中で、「他者から認められたい、褒められたい」という欲求があることで、頑張ることができモチベーションアップにもつながるのではないのでしょうか。だからこそ承認欲求が満たされれば、自分が存在することには価値がある、存在する意義を感じて自己肯定感が上がることにもなり自分に自信がもてるようになります。

しかし、承認欲求が満たされないと、自分は認められていない、必要とされていないと考えて無力感や劣等感に苛まれて自己肯定感が下がってしまいます。

ちいろば会でも、利用者のみなさんに自己肯定感を持ってもらえるような支援をするように日常的に言われています。でも実際の支援の現場は支援者側の気持ちに余裕がなく相手を肯定し続けることができているのが現状だと思います。もっと簡単に言えば、利用者のみなさんに対して指示ばかりしていることはありませんか。そんな時はきっと支援者自身の承認欲求が満たされていないのかもしれないね。人によって欲求の強さ、大きさには違いがあり、自身の承認欲求の強さや大きさを自覚できていない人も少なくないと思います。そのような場合には承認する側の承認するバランスや、その人が持つ承認欲求の強さや大きさの見極めも重要になってくるのではないのでしょうか。

実は私もここ数年、自分の存在意義について考えることがあります。だからこそ日常の中で相手に感謝を示し、相手を敬うことにもつながる「ありがとう」と「ごめんなさい」の気持ちを言葉にするように心掛けています。何気ない一言でも相手の承認欲求を満たすことにつながれば自己肯定感を感じてもらえる、そんな「ありがとう」の一言が個人的には最高に相手を承認している言葉だと感じているからです。また、私自身の承認欲求については他者からの承認を得ることばかりを考えるのではなく、自分で自分を認められる自己承認も承認欲求を満たす一つだということを意識しながら日々過ごしていきたいと思っています。

—ぼくも わたしも みんなが主役— しゅやく

- 質問① しゅもん 名前なまえと年齢ねんれいは？
 質問② しゅもん 今はだれとどこで暮くらしていますか。
 質問③ しゅもん 家族かぞくにまつわるエピソードは？
 質問④ しゅもん 学校がっこう、就労時代しゅうろうじだいのエピソードは？
 質問⑤ しゅもん 最近さいきん気きになっていること、興味きょうみがあることは？

- ① はまの濱野 ゆりこ由利子 36歳さいです。
 ② いま今はお母かあさんと暮くらしています。グループホームすみれ荘そうに、お試ためしで週2回暮くらしています。
 ③ わたし私の家族かぞくですが、近ちかくにお兄にいちゃんとお姉ねえちゃんが住すんでいて、病院びやういんや買かい物ものに一緒いっしょに行いってくれます。お姉ねえちゃんの家いえで飼かっている、チワワの「カン吉きち」と散歩さんぽするのが楽たのしいです。
 ④ がっこうじだい学校時代たのに楽しかったことは、斑鳩西小学校いかるがにししょうがっこうでは運動会うんどうかいや音楽発表会おんがくはっぴょうかいなど友達ともだちが優やさしく見守みまもってくれて、一緒いっしょに楽たのしむことができました。また、二階堂養護学校にかいどうようごがっこうでは、バスに乗のって学校がっこうに行くのがうれしくて、毎日元氣まいにちげんきに手をあげて乗のっていました。逆さかにつらかったことは、病氣びやうきで修学旅行しゅうがくりょこうに行けなかったことです。事前学習じぜんがくしゅうや準備じゅんびをして楽しみにしていましたが、直前ちかぜんに体調たいちようをくずして休みました。家で寝ねて過ごしましたが、先生せんせいがお友達ともだちからのメッセージやおみやげを持ってお見舞みまいいに来てくれたのはうれしかったです。
 ⑤ さいきんきょうみ最近興味きょうみがあることは、王寺駅おうじえきで電車でんしゃを見ることです。電車でんしゃに向かって手を振ふって「バイ」するとうれしくてお大きな声こゑがでます。時々、駅員えきいんさんにもっこり笑わらってくれます。今後こんごやってみたいことは、グループホームの生活せいかつに慣なれて、みんなと楽たのしく暮くらしたいです。月1回～2回ヘルパーさんとおでかけで、買かい物もの以外いがいのところも行いってみたいです。次つぎは美容室びようしつに行いこうと思っています。



- ※ こんかい今回で「ぼくも わたしも みんなが主役」は最終さいしゅうになります。
 ※ こんご今後の企画きかくは現在げんざい、検討けんとう中です。どうぞ、お楽しみたのしみに・・・！

わすれないよ・・・いつまでも・・・

2000年4月から通所つうじょしていた、利用者りようしゃの松長 玲まつなが りょうさん
 今年1月3日 脳梗塞のうこうそくにより、急逝きゅうせいされました。
 長年ながねん、ちいろば園えんの利用者りようしゃとして活躍かつやくしてくれた松長さん。
 2019年1月からは、ちいろば会かいのグループホームのお向むかいの
 アパートで一人暮らしひとりくをはじめ、2週しゅうに一度、実家じっかに帰省きせいする
 暮らし暮らしを続つづけていました。
 あまりにも急きゅうな別れわかれが残念ざんねんでなりません・・・
 ご冥福めいふくをお祈いのりします。



久しぶりのクリスマス会

ちいろば園職員 辰己 真奈美

みんなが、楽しみに待っていた年末の大イベント クリスマス会が、12月23日にちいろば園で開催されました。そして、今年(ことし)はちいろば園開設35周年(しゅうねん)を記念して、ちいろば園(えん)に長く通所(つうしょ)している人(ひと) (1989年(ねん)～2004年(ねん) 2010年(ねん)～2014年(ねん)の間に、利用(りよう)を開始(かいし)された人(ひと) 利用者(りようしゃ)38名(めい) 職員(しよくいん)9名(めい) 合計(ごうけい)47名(めい)の表彰式(ひょうしょうしき)が、行(おこな)われました。

ここ何年(なんねん)かは、コロナ(えいきょう)の影響(えいこう)でできなかつたり、昨年(さくねん)は、急(きゆう)な職員(しよくいん)の退職(たいしよく)でおこなうことができなかったため、みんなは本当(ほんとう)に待ち遠(ま)しかったとおもいます。その分(ぶん)今年(ことし)は、準備(じゆんび)の段階(だんかいは)からみんなのわくわくが、伝(つた)わってききました。12月(がつ)に入(はい)ると食堂(しょくどう)にアドベントカレンダー(あだべんとかるんだー)を貼(は)り出(だ)します。1日(いち)が終わ(お)るとシール(しー)を貼(は)っていきま(み)す。それ(それ)を見て「もうすぐやね～」 「誰(だれ)が表彰(ひょうしょう)されるん？」 「礼拝(らいはい)のセリフ(せりふ)がんばってるよ」 「うちのグルー(ぐ)ープ(う)は、こんなゲーム(げー)するよ」と楽し(たの)しそうに話(はな)されているのを聞(き)くと、担当(たんとう)としては、うれし(うれ)しくもあり、気(き)の引き締(し)まる思(おも)いでした。



当日(とうじつ)は、表彰式(ひょうしょうしき)から始(はじ)まりました。一番(いちばん)長く通所(つう)されている K さん(さん)で 35年(ねん)!! ちいろば園(えん)の開園(かいえん)当初(とうしょ)からの人(ひと)です。名前(なまえ)を呼(よ)ばれて前(まへ)に出(い)て一人(ひとり)ずつ施設長(しせつちやう)から賞状(しょうじょう)と記念品(きねんひん)をもらい、写(しゃ)真(しん)を撮(と)ってもらいます。どの人(ひと)もいい笑顔(えが)です。誇(ほ)らじげな人(ひと) ちょっ(ちょ)とてれくさい人(ひと)…それ(それ)ぞれ(ぞれ)いろん(いろ)な思(おも)い出(で)があつたと思(おも)います。これ(これ)からも がんば(がんば)ってくだ(くだ)さいね。

そして、いよいよクリスマスパーティー(クリスマスパーティー)です。久しぶ(ひさ)りのバイキング(ばいキング)形式(けいしき)の食(しょく)事(じ)で、美味(おい)しそうなお料理(りょうり)がテ(て)ーブル(ぶる)に並(なら)びました。自分(じぶん)の好(す)きなものを取(と)ってき(き)て、食(た)べるはず(はず)が、好(す)きな食(た)べ物(ぶつ)の前(まへ)から離(はな)れられず(ず)にその場(ば)で食(た)べてしま(しま)っている人(ひと)が何(なん)人(にん)もいます(わらい) (笑)

食(しょく)事(じ)の後(あと)は、各(かく)グルー(ぐ)ープ(う)で用意(ようい)したゲーム(げー)とみんな(みんな)でクリスマスソング(クリスマスソング)を歌(うた)って楽(たの)しみま(ま)した。最後(さいご)は、ちいろば園(えん)開園(かいえん)35周年(しゅうねん)を記念(きねん)して全(ぜん)員(いん)で写(しゃ)真(しん)を撮(と)りました。

また、みんな(みんな)の楽(たの)しい思(おも)い出(で)のひと(ひと)つにな(な)ってくだ(くだ)さいたらいいな(いいな)と思(おも)います。



利用者とのコミュニケーションについて

グループホーム職員 菅野 努

私は、成人してから ASD (自閉スペクトラム症) と診断されました。

ASD とは、簡単に言うと他者とのコミュニケーションが苦手という「病気」です。

そんな病気を持っていたので、2～30歳くらいまでは、人との関わりが苦手でした。

相手の思っていること考えていることが解らず、また、自分の思いや考えも相手に伝わらない。

そんな経験を、沢山してきました。それはもう星の数ほど経験してきました。

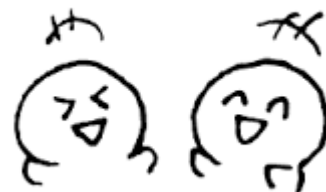
今では、そんな経験から、相手の伝えたい事をよくよく考え、想像し、自分の伝えたい事をどうすれば、相手に伝えられるのか、伝わるのかを考えられるようになりました。

さて、自分語りが長くなりましたが、今回のテーマである「利用者とのコミュニケーションについて」に戻ろうと思います。先ほど語った経験から、利用者の方が伝えたい事を言動だけでなく、しぐさやそれぞれの個性、これまでの行動、さらにはその背景、前後関係など様々な角度から伝えたいだろうことを汲み取る努力をしています。

何故ならば、思っていることが伝わらない辛さを知っているからです。また、伝えたい思いが伝わる喜びも知っているので、相手の思いを理解してあげたいと強く思っている行動です。

また、伝える努力も大切で、ASD が故の伝える能力不足を自分でわかっているのも、より一層伝えること、伝わったかどうか、より分かりやすく伝えるにはどうすればいいのかを考え、自分の立場 (ASD) になって、自分がわかりやすい伝え方だったかとかも考えたりします。

そういったコミュニケーションを積み重ね、信頼・信用してもらうことで一段階上のコミュニケーションへと上がっていくのだと思います。



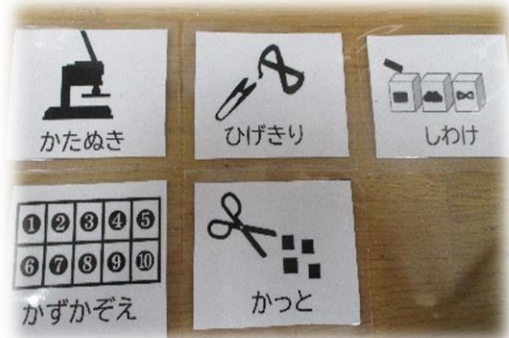
あいて たちば た ねつりょう たか
 どれだけ相手の立場に立って熱量を高めることができるか

えんしよくいん しんぐう ゆうじ
 ちいろば園職員 新宮 由士

ちいろば園では、日中の活動として主に作業活動を行っています。活動を通じて、自分の役割や責任をもつこと、出来ることが増えてやりがいを感じる、仲間と協力し合うこと、社会との繋がりができることなど様々な経験を得ることができます。そして、売り上げから必要経費を差し引いた金額はすべて利用者の皆さんの工賃として分配されます。毎月の工賃を楽しみにされている方も多くいます。中には工賃で生活費の一部を担っている人もいて、作業を頑張っているというの皆さんのモチベーションに繋がっています。

作業活動の一つとして内職の作業があります。しかし、最近では内職量も減少して十分な作業量を確保することが難しくなっているのが現状でした。そのような時に新たな内職作業の紹介を受けることができました。その作業は、野球グローブの製造過程で出た端革を再利用して新たな革製品をつくる作業です。今は、始めたばかりなので、端革に数種類ある型を当てハンドプレス機で裁断するという工程の一部分を任されていますが、今後は留め具のボタンの取り付けなども任せて頂ける予定になっています。利用者の皆さんも新しい作業に強く関心を持ち、「僕も、私も」と生き生きと取り組まれています。利用者の皆さんが取り組めるように工程を考え、道具を用意して、まだまだ改良していかなければならない点もありますが、少しずつ形になってきたところです。

作業量が減少していることを認識しながらも、何も行動を起こすことが出来なかった自分に反省するばかりです。この作業の製造販売元JINTOさんの代表者辰巳清仁さんは、障害者施設の現状を知った時、利用者の工賃のあまりの低さに驚き、なんとかしなければいけないという想いでアイデアを絞り、端革を利用した革製品の商品化を考えられたと聞いています。私も少しでも見習い皆さんの日々の活動が充実できるように努めていきたいとおもいます。



虐待防止の取り組みとして・・・

本法人では、利用者みなさんへの支援内容を評価するため、法人内職員だけでなく外部の協力者の方々を含めた「権利擁護委員会」を年3回開催しています。職員は、日々の支援や言動を「虐待の芽チェック表」を使って振り返り、委員会に向けてその内容について議論します。利用者みなさんから委員会の上で意見を発言してもらいます。今回は、11月に開催された委員会に出席した中から、ちいろば園職員笠井草太さんに感想を聞きました。

今回の権利擁護委員会で当事者活動「みんなの会」の利用者さんから直接、「忙しいのはわかるけど、笠井さんのSさんとかYさんに注意する時の言い方がきつい時があるのが気になる。そのことについて聞かせて欲しい。」と意見をいただきました。

この件は私自身自覚があり、いつも後から「あの言い方はよくなかったなあ」と自分の中で反省するのみでした。ですが今回、周りの方々にも嫌な思いをさせていることを痛感し、真摯に受け止め今後の自身の振る舞いに留意することを宣言し謝罪しました。発言された利用者さんは「言うか悩んだけど、言って良かった」と話されていました。みんなの会発足以前であれば、「こんなこと言ったら怒られる」と感じ、今回のような発言は出てこなかったかも知れません。また、ただ単に「何かある？」と聞くだけでは当然何も出てきません。今日に至るまで利用者主体の事業所を実現させるためにみんなの会で施設長、主任、担当者が試行錯誤し、利用者本人の思いが引き出される工夫、更にどんな意見でも否定されない活動を続けてきたことにより、一人一人が自由に発言できる環境が出来てきました。年単位で築き上げられた環境です。

そして今回私が思ったことは、利用者みなさんが職員に対して思ったことを自由に発言できるこの環境を維持しなければならないということです。そのためには職員全体の意識の在り方が重要です。もちろん威圧的な態度で否定するなど論外です。発言した利用者さんに「言わなければ良かった」と思わせるようなことはあってはならないからです。自分の行いについて、理由を説明し議論することは重要です。その中でまず第一に職員は、利用者主体の事業所を実現させることを理念に掲げる法人の一員として、虐待の自チェック表で出た意見を真摯に受け止めること、客観的にどう見えているかを理解して反省、改善する意識を持たなければなりません。

今回発言された利用者さんは「忙しいのはわかるけど」と私を気遣いながら話されていました。私はその優しさに甘えてはいけません。いただいた意見を忘れず、忙しさなど関係なく、自身の役割や立場を正しく理解し、利用者みなさんが臆せず自由に発言できる環境を維持して、信頼を得て利用者の皆さんが自信をもって過ごしてもらえるように務めていきます。

ちいろば園職員 笠井草太

☆^{こうえんかいひ}後援会費・^{ねんかんこうどくりよう}ちいろばだより年間購読料 (2024年10月1日~2024年11月30日)

ありがとうございました。

篠原範子、大賀 太、村上太一、中川朋子

^{いじょう}以上 ^{けいしょう}敬称は ^{りやく}略させていただきます。

※ ^{はいそうていし}ちいろばだよりの^{まほろう}配送停止を^{かた}ご希望の方は、^{えん}ちいろば園まで^{れんらく}ご連絡ください。

あけましておめでとうございます



—ちいろばだよりの^{はつごうかいまらへんごう}発行回数変更のお知らせ—

ちいろば園^{えん}の^{せつりつ}設立を^{めざ}自指して、1986年10月から^{かんこう}刊行した「ちいろばだより」^{とうしよ}当初は、^{まいつきはつごう}毎月発行していました。しかし、^{ゆうびんだい}郵便代の^ね値上げにより2か月に1回の^{はつごう}発行に変更、その後、^{かんさいしょうがいしゃていきかんこうぶつきょうかい}関西障害者定期刊行物協会に^{かめい}加盟して、^{げんざい}現在の^{ねん}スタイルで^{ねん}年6回(2か月に1回)の^{はつごう}発行を^{つづ}続けてきましたが、2025年度(264号)からは、^{ねん}年4回(5月、8月、11月、2月)の^{はつごう}発行へ^{へんごう}変更させていただきます。^{ていぎこうどくりよう}定期購読料については、^{しよげいひ}諸経費の^ね値上げを^{ごらひ}考慮して、^{げんざい}現在の^{ねんかんこうどくりよう}年間購読料500円/年を^{えん}維持させていただきます。^{りかいたまわ}ご理解賜りますようお願い^{ねが}申し上げます。

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会 年6回 頒価 50円
 連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14
 TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-72-1924
 発行人／ 関西障害者定期刊行物協会
 大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行